

平成26年2月7日（金）に、道総研森林研究本部 林産試験場と北海道木製窓協会と共同で、「2014木製サッシフォーラム」を開催します。
今年度は、これからの住宅におけるサッシのあり方について、研究成果や施工事例の紹介を交えながら考えていきたいと思えます。
詳細が決まり次第、ホームページ等でお知らせする予定ですので、多くの方にご来場いただきますよう、よろしくお願いいたします。

日 時：平成26年2月7日（金）
13：00～16：30

場 所：旭川市大雪クリスタルホール国際会議場
旭川市神楽3条7丁目

（企画課 酒井）

=====
トピックス 「北海道における人口減少集落の課題」
=====

人口減少、高齢化が著しい北海道では、地域の生活を支えてきた社会基盤（都市インフラ、生活サービス等）を、今後同じように維持することが困難であることから、これからの人口減少社会にも対応できる持続的な地域の姿を検討してゆく必要があります。

そのため北総研では「北海道における人口減少集落の社会基盤の状況に関する研究」を実施し、集落の現状・課題の把握と集落における都市インフラ、生活サービス等の状況について把握しました。

道内には約4000の集落があり、その半数は人口100人未満で、高齢化率が60%以上または人口が20人未満のところでは、集落の機能維持や存続が危ぶまれています。また、集落住民へのアンケートでは、半数以上の人が除雪通院・医療、教育環境、救急などに困難を感じていることがわかりました。

これらに対して、市町村ではデマンドバスや福祉タクシーなどの交通対策、移動販売車や時間限定店舗などの買い物利便性の向上、地域おこし協力隊などの集落活性化などに取り組んでいます。また集落住民が自主的に自治会活動などを通じて集落の活性化を図っているところもあります。

上水道・道路といったインフラについては、役場がある市街地以外の集落部分の上水道、市町村道延長が市町村全体の90%以上を占めているところもあり今後の人口減少を考えるとこれらのインフラを維持していくことさえ難しくなると考えられます。

これらの結果から今後の集落を維持していくために必要なこととして、（1）集落における計画的土地利用、（2）効率的なインフラの再編・整備、（3）効率的な生活サービス支援や相互扶助を実施する必要があります。

平成26年度以降はこれらの課題に対してどのような制度や施策を考えていくべきかについて研究を行う予定です。

（居住科学G 福井）

=====
研究紹介「経常研究：地域気候に適合する建築物の設計およびまちづくりに
向けた気象データの解析手法に関する研究」
=====

旭川ではついに本格的な冬が到来し、日平均気温がマイナスとなる日が続いて
おります。今回は町の中の気象データ解析に関する研究についてご紹介いたし
ます。

同じ町内でも、この地域はあの地域よりも気温が高い、風が強い、または積雪
が多いなどといった気候の違いを経験されたことのある方は多いかと思いま
す。町の中の気温や風向風速などの気象データは、地形、標高、土地利用、植生な
どの要素によって大きく異なることがあります。ドイツの諸都市では、大気汚
染問題を背景に、このような地域的な気候特性を考慮したまちづくりが積極的
に進められています。具体的には、「クリマアトラス（都市環境気候図）」と
呼ばれる気候分析結果などを分かりやすくまとめた地図を作成し、これに基づ
き風の道を考慮した建物配置などが行われています。

ドイツの事例のように地域的な気候特性を把握するためには、面的な気象状況
を表すデータが必要になります。しかし、私たちが一般的に利用できる気象デ
ータは、各市町村に概ね一つ設置された気象庁の観測点で測定され、公開され
ているデータのみであり、面的な気象データの入手は困難です。

そこで本研究では、平成24～26年度の3年間で、町の中の面的な気象デー
タを入手するために、気象モデルと呼ばれる数値モデルを用いて詳細な気象デ
ータを解析することを目的としています。このため、道内自治体を対象とした
定点気象観測や移動気象観測を行い、気象データを入手しています。また、入
手した気象データと数値モデルによる計算結果を比較しながら、数値計算の再
現性を検証しています。北海道らしい環境に配慮した建築設計やまちづくりな
どの場面で本研究の成果が活かされることを目指し、研究を進めていきたいと
思います。

(居住科学G 阿部)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【ひとことエッセイ～2013年を振り返り～】

2013年の話題に2020年東京オリンピック開催決定、建築界では新歌舞
伎座開業、丹下健三・大江宏の生誕100周年がありました。その中から一言。

丹下・大江の両氏は大学の同級生であり、二人とも多くの作品を残されました
が、中でも、1964年東京オリンピック水泳会場だった丹下健三の「国立代
々木競技場」は、国内で最も有名な現代建築と言って良いでしょう。吊り構造
大屋根による凜としたシルエットは、今でも他の建築には見られない稀有の存

■【編集後記】

最近、老朽化する公共施設の維持管理に関する新聞記事をよく見かけます。すべての記事で共通しているのが、「対策が急務という問題意識はあるものの財源確保が難しい」という自治体の厳しい現状があります。また、市町村へのアンケートでは道内114市町村が公共建築物の維持・補修や建て替え費用を推計していないと回答しており、この問題に対する対応の難しさがうかがえます。

当所では、今年度、既存の簡易診断ツールの精度把握や新たな非破壊診断技術の可能性についての研究を進めているところであり、今後も、耐用年数だけでなく、現状の性能や劣化状況を評価し、施設の更新順位付けや予算の平準化に役立つ研究に取り組んでいきたいと考えています。

(企画課 細谷)

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。